

研究課題：当チームにおける片側唇顎口蓋裂の第二次骨移植の必要性と顎発育について

1. 研究の目的

唇顎口蓋裂の手術を行う際に歯肉の粘膜を同時に縫い合わせる手術（以下、GPP）を同時に行うと、顎裂部に骨が作られるとう報告が出ています。当治療チームでも術前顎矯正後の初回の手術の際に可能であれば GPP と軟口蓋癒着術を行っており、その治療結果を評価し報告します。

2. 研究の方法

当院形成外科にて、GPP ならびに軟口蓋癒着術を併用した唇顎口蓋裂に対する初回手術を受け、その後日本矯正歯科研究所附属デンタルクリニックにてレントゲン撮影を含む矯正歯科治療の精密検査を受けた片側唇顎口蓋裂の方を対象として、過去のカルテや撮影したレントゲン写真などのデータを用いて検討を行います。

3. 研究期間

2010年1月～2020年8月までに当院形成外科にて、GPP ならびに軟口蓋癒着術を併用した唇顎口蓋裂に対する初回手術を受け、その後日本矯正歯科研究所附属デンタルクリニックにてレントゲン撮影を含む矯正歯科治療の精密検査を受けた、片側唇顎口蓋裂の患者様。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

過去のカルテやレントゲン写真などのデータ。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

学会あるいは紙面発表する場合は、画像内の名前や ID 番号などの個人情報を削除し、匿名化した上で使用します。

6. 研究組織

日本矯正歯科研究所附属デンタルクリニック 院長 山本友紀
埼玉県立小児医療センター 形成外科 科長兼副部長 渡辺あずさ

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象と

しませので、2021年3月31日まで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）